



独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <https://higashitokushima.hosp.go.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

やさしい笑顔と よりそう医療

11月号
vol.220

2023.11.1

新型コロナウイルス感染症の 発生状況とワクチンについて



呼吸器内科 朝田 完二

日本国内での新型コロナウイルス感染は、2020年1月15日に武漢市に滞在歴がある肺炎の患者が、国内初症例として神奈川県で報告されました。その後、2020年4月上旬に患者が増加し、全都道府県に緊急事態宣言が発出された。これが第1波です。次いで2020年6月中旬から8月上旬をピークに患者が増加し、第2波となった。2021年1月上旬をピークに患者が増加し、第3波となった。2021年5月には、新型コロナウイルス変異株であるアルファ株による患者が増加し、第4波となった。2021年8月には、変異株であるデルタ株による患者が増加し、第5波となった。2021年末に、オミクロン株発生以降は、多くのオミクロン株系統が発生している。2022年2月をピークに、オミクロン株のBA1およびBA2の流行で、第6波となった。2022年7月下旬をピークに、オミクロン株のBA5の流行で第7波となった。直近では、2023年1月をピークに、第8波が発生した。2023年5月8日新型コロナウイルス感染症が感染症法上2類から5類となり、患者の全数把握が終了した。私たち医療関係者と高齢者は、最高で6回のコロナワクチンを接種しているが、6回目に接種したワクチンは、多くがオミクロン株のBA1とBA2対応ワクチンか、BA4とBA5対応ワクチンです。その後も、オミクロン株はいろいろな亜系

統に変化しています。2023年8月10日東京都の検査では、ほとんどがBAではなく、XBBとなっています。XBBとなって、免疫逃避により感染しやすくなっていますが、重症度は変化ありません。今後は、XBB.1.9.2の亜系統である、EG5が増加すると予測されています。11月1日付けのくすの木が発刊されている時には、次のワクチン接種がすでに開始されていると思います。そのワクチンには、ファイザー製かモデルナ製のXBB.1.5系統対応ワクチンが使用されていると思います。新型コロナウイルス感染症の患者さんを私が外来で治療する場合、高齢者の方や基礎疾患がある患者さんには、抗ウイルス剤であるパキロビッドやゾコーバを投与する場合があります。2023年9月までは国の補助があり無料でしたが、10月より薬代として9,000円必要になります。来年になり国の補助がまったく無くなれば、1症例分の薬価が90,000円なので、3割負担の方は薬代が27,000円必要になります。

最後に、新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の2類から5類に変わっても、ウイルスそのものは変わっていません。3密を避けることや手指衛生に気を付けることやマスク着用などの感染対策が、これまでと同様に必要と考えます。

還暦

を迎えたみなさんをお祝いしました

9月中旬に、重症心身障がい児者病棟で、還暦を迎えられた患者さんのお祝いの会を行いました。今年度は、病棟毎に3日間設け、会を開きました。ちゃんちゃんこをお召しになった皆さんがデイルームに集まると、華やかなお祝いムードが広がり、お祝いの挨拶や、還暦を迎えた患者さんの紹介、記念品・花束贈呈と式が進みました。アトラクションでは、坂本九の「上を向いて歩こう」を療育指導室長のギター演奏にあわせ出席者全員で歌いました。マイクを持ち歌う患者さんの姿、楽器をにこやかに鳴らす姿、とても印象に残っています。

60年、それぞれの患者さんがどんな生活を送ってきたのか、ふと考えます。一人ひとりに、これまでの思い出やどんなエピソードが記憶に残っているのか、聞いてみたい気持ちになります。60歳という節目を迎え、これまでの道のりが明るく照らされているといいなと思うと同時に、これからも健康に元気に過ごしていただきたいと願うばかりです。患者さんの毎日が楽しく穏やかな日々になるよう療育指導室も支援していきたいと思います。今年度は、感染症対策のため、ご家族にはリモートでの参加の案内となりましたが、来年度はご家族にも参加していただき、お祝いができるよう願っています。

(療育指導室 保育士／浦岡 しのぶ)

※お写真の使用はご家族に了解を得ています。



すだちくん



が来たよ

Sudachi-kun!!

猛暑が続く7月のある日、療育訓練棟に徳島県のマスコットキャラクター・すだちくんが来てくれました!! 東病棟の夏行事「Hot 夏テッド!! 限界突破×サマーバル」のスペシャルゲストとしての登場です。

すだちくんの登場に、驚いた表情を見せる患者さん。目を丸くして、見入っておられる方や、弾けるような笑顔を見せてくれた方もいらっしゃいました。

患者さんと一緒に野球ゲームや、応援合戦、阿波踊り、ダンスなどに参加してくれたすだちくん。患者さんすだちくんとふれあいを楽しんでいたただけたようです。

すだちくん、また来てね!!

(療育指導室 児童指導員／白井 妙)

※お写真の使用はご家族に了解を得ています。



夏休み
大作戦



うどん学校





♡♡♡

今年初の試みとして、児童を対象に“夏の体験を通して、生活に刺激を感じるとともに成長発達を促す機会を設ける”ことを目的とした行事を開催しました。

児童にとって夏といえば…夏休み！夏休みといえば…自由研究☆

皆さんも学生時代は夏休みの宿題の一つとして自由研究を考え、様々なことに挑戦したのではないのでしょうか？（^▽^）

そこで今回、当院の児童には夏の自由研究として実際に見たり、触れたりと身体で体験できる内容を考え、参加してもらうことにしました。

今年度、体験したのは「うどん作り」です!! 小麦粉のさらさらとした感触から、水を含んだ際のもちもちとした感覚を手や足で感じたり、茹で上げたうどんの香りをかいだり、自ら好きな具材をトッピングしてオリジナルのうどんを作りました。

うどんの生地を足で踏んだ時、心拍数が上がりびっくりした様子の児童や職員の掛け声や小麦粉をこねるのが楽しいようでニコニコと笑顔で参加される児童がいました。職員にとっても普段体験できないことに挑戦でき、一緒に楽しむことができました(^▽^)/

（療育指導室 児童指導員／高嶋 みどり）

※お写真の使用はご家族に了解を得ています。



日本DMAT

隊員養成研修を終えて

特定行為研修修了者 副看護師長 矢野 祐樹

令和5年8月10日～8月12日に香川県のレクザムホールで開催された日本DMAT養成研修に参加してきました。DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとり略して「DMAT (ディー マット)」と呼ばれています。

私が災害看護に興味を持つきっかけになったのは、東日本大震災でした。私は、当時3年目の看護師でしたが、災害支援看護師として宮城病院での1週間の支援に参加しました。そのとき私は、災害看護に関する知識はありませんでしたが、現地で活動する日本DMATの活動の様子を見て「頼りになり、カッコいい」と思い、その頃、当院にもDMAT隊が結成されたこともあり、日本DMAT研修への参加を希望しました。

日本DMAT研修では、DMATとして活動していくために必要な下記に示すCSCATTTに沿った活動の重要性を学びました。また筆記試験、実技試験においても災害現場で状況把握、判断、伝達する上で大切なトランシーバーの使用やトリアージの技術を学ぶことができました。

今回の研修に参加することで、災害に関する知識、技術は勿論、日本DMAT隊員としての活動意識を高めることができました。災害はいつ発生するか分かりません。そのため定期的に院外と連携した災害訓練を実施しています。今回の研修で学んだ内容を今後の訓練に活用し、発災時、迅速に行動できるように役立てていきたいです。

DMATは個人としてではなく、チームとしての活動です。当院のDMAT隊員として、病院や地域に貢献できるよう頑張っていきたいです。

大規模事故・災害への体系的に必要な項目：CSCATTT

C : Command and Control	指揮・統制
S : Safety	安全
C : Communication	情報伝達
A : Assessment	評価

※ CSCAの確立を無くして、TTTはありえない

T : Triage	トリアージ
T : Treatment	治療
T : Transport	搬送